

Topics from Within

マイクロウェーブ展(MWE)2007 における AIAA-JFSC 展示について

展示委員会 副委員長
壺岐 安政

概況

2007 年 11 月 28 日から 30 日までの 3 日間、パシフィコ横浜(展示ホール D)で開催された MWE2007 において AIAA-JFSC からの展示が実施されました。主催者側の話では、MWE は年々参加者が増加しており、1990 年の第一回開催時の 3000 人規模から 6000 人規模にまでなってきているとのことでした。

今年は、三日間で総勢約 6200 人（主催者側発表）とのことで、AIAA-JFSC 展示コーナーにも大勢の方々にお立ち寄りいただきました。

展示内容

今年は、2008 年 2 月に打上を予定している超高速インターネット衛星「きずな」(WINDS)をメインテーマに「きずな」紹介ビデオや模型などと共に、既に 2006 年 12 月 18 日に打上げに成功し、通信実験を実施している技術試験衛星Ⅷ型「きく 8 号」(ETS-Ⅷ)の各種通信機器を宇宙航空研究開発機構(JAXA)殿および情報通信研究機構(NICT)殿から出展していただきました。

● 出展品目

「きずな」(WINDS) 関連

WINDS 模型

ウェアラブルカメラ（実験用）

アクティブ・フェーズドアレイ・アンテナ

「きく 8 号」(ETS-Ⅷ) 関連

きく 8 号搭載用高精度時刻比較装置の信号処理部

きく 8 号ポータブル端末、きく 8 号超小型携帯通信端末

衛星通信用超小型位置情報送信機

S 帯移動体衛星通信携帯端末

可搬型地球局折りたたみアンテナ

その他

準天頂衛星軌道の模型

10Gbps 空間光通信装置

参加者数（主催者発表）

	展示会場	ワークショップ会場	合計
11月28日（水）	1175	575	1750
11月29日（木）	1449	610	2059
11月30日（金）	1767	627	2394
合 計	4391	1812	6203

トピックス

超高速インターネット衛星「きずな」(WINDS)は、一般家庭でも超小型アンテナ（直径45cm程度）を設置することで最大155Mbpsの受信を、また企業等では直径5m級のアンテナを設置することで、最大1.2Gbpsの双方向通信が可能であるということが注目されました。

AIAA 展示委員会

2007年のAIAA展示委員は以下の通りです。

	氏 名	所 属
委員長	堀川 康	(独)宇宙航空研究開発機構 理事
副委員長	梶岐 安政	日本電気(株)宇宙事業推進室
	北爪 進	(株)ジェピコ 最高顧問
	浜本 直和	(独)情報通信研究機構 新世代ワイヤレス研究センター 推進室 研究マネージャー
	奥田 雅子	(独)宇宙航空研究開発機構 宇宙利用推進本部事業推進部業務課
	五百木 誠	三菱電機 宇宙システム企画部
	柳田 幸宏	(株)オープンハウス
	樋口 孝輔	(株)オープンハウス

AIAA衛星通信フォーラムの活動について

AIAA-JFSC Activity

MWEマイクロウェーブ展2007に参加するにあたりAIAA (American Institute of Aerospace and Astronautics) 衛星通信フォーラムよりご挨拶申し上げます。1998年2月23日～27日に、AIAA第17回通信衛星システム国際会議(17th International Communications Satellite Systems Conference and Exhibit, 以下第17回AIAA ICSSC)がパシフィコ横浜で開催されました。本会議は32年間のICSSCの歴史の中、北米以外で初めて開催される地として我が国が選ばれたものでした。開催準備のために、産学官の密接な協力が行われ、特に産の方々が中心となって、自発的に準備が行われました。



第17回AIAA ICSSCが成功裏に終わったことを受け、このような活動を継続すると共に、AIAAの日本及びアジアの会員を増やし、また特に若い会員を獲得することによりAIAAのより一層の活性化を目的としてAIAA衛星通信フォーラム(AIAA Japan Forum on Satellite Communications)が1999年2月に設立されました。同時に、会員相互の情報交流並びに衛星通信技術を広く一般社会に理解して頂くことを目的に機関紙「Space Japan Review」を創刊しました。現在は電子メディアとして続けており本フォーラムの重要な情報発信手段として定着しております。ぜひ <http://satcom.nict.go.jp/> をご覧ください。

その後本フォーラムが中心となり、第21回AIAA ICSSCを2003年4月15日～19日再度横浜パシフィコにて開催しました。この活動は、第25回AIAA ICSSCをAPSSC (Asia-Pacific Satellite Communications Council)と本フォーラム共催にて2007年4月韓国ソウルでの開催に継続されました。

組織イメージは「組織実体×情報発信力」と捉えられますが、本フォーラムのイメージも同じことが言えると思います。即ち、組織の強さ、会員の研究活動といった実体が高くても情報発信力が弱ければ認知されませんしイメージも高まりません。逆に、情報発信力が強くても実体が弱ければイメージは高まりません。衛星通信は非常に重要な技術ですが、一般社会からは見え難い分野であります。最近国家も宇宙基本法の制定を全面して国民の認識を深めようと努力しています、情報発信力の強化は本フォーラムにとって重要な使命であると考えています。

情報発信のひとつの手段として1999年12月に、マイクロウェーブ展(MWE'99)のシステム展示にAIAA衛星通信フォーラムとして出展し好評を博しました。その後も継続的に出展を続け、本年に至っております。まさに本フォーラムの目的の1つであります衛星通信を広く社会に啓蒙することに役立っていることと確信致しております。

最後に、日頃、皆さまからAIAA 衛星通信フォーラムの活動にご支援頂き感謝致しますとともに、引き続きご支援賜りますよう宜しくお願い致します。

AIAA衛星通信フォーラム 会長
平田 康夫(株式会社国際電気通信基礎技術研究所 代表取締役社長)

AIAA衛星通信フォーラム 展示コーナーについて

Microwave and Millimeter-Wave Communication Exhibit

AIAA衛星通信フォーラム(AIAA Japan Forum on Satellite Communications)は、衛星通信技術の発展と利用の推進を目指す者の情報交換の場として、1999年1月にAIAA通信システム技術委員会のサブコミッティとして設立されました。展示会、Webベースでの機関誌の発行(<http://satcom.nict.go.jp/>)等を通じて世界に広がる衛星通信関係者の交流を深め、広範囲な分野の技術の交流、融合を促す活動を進めてきております。



衛星通信システムは、他の手段に比べて、広域通信、同報通信の容易さ、回線設定の柔軟性と即時性、さらには強い耐災害性など多くの特長を持っており、地上通信システムとともに相補的な発展が期待されています。衛星放送・衛星通信サービス市場における売上高も、高い増加率で順調に伸びつづけております。また、将来に向けて、政府の策定するe-Japan重点計画の中でも、ブロードバンド時代への研究開発の推進として超高速インターネット衛星「きずな」(WINDS)の重要性や、移動体におけるインターネット利用環境及び高精度測位社会基盤の確立のために準天頂衛星システムの研究開発の推進が謳われています。

展示では、平成19年度冬期打上げ予定の超高速インターネット衛星「きずな」(WINDS)のアクティブフェーズドアレイアンテナ、可搬型地球局アンテナや模型の展示をはじめ、平成18年12月に打ち上げた技術試験衛星「きく8号」の高精度時刻比較装置、衛星通信用超小型位置情報送信機、また新しい軌道を用いた準天頂衛星などを紹介する展示を行っておりますのでご覧いただきたいと思います。

宇宙開発、宇宙利用の促進のため、多くの方々に本フォーラムを活用していただければ幸いです。今後とも、AIAA衛星通信フォーラムへのご支援をよろしくお願いします。

AIAA衛星通信フォーラム 展示委員長
堀川 康(宇宙航空研究開発機構 理事)



